

E-Communication partner
人と地球にいいコミュニケーションパートナー

Environmental Report

環境報告書 2009



KINKAN GROUP

www.kin-kan.co.jp

1 ぐあいさつ



近畿環境保全株式会社
代表取締役社長
株式会社湖南リサイクルセンター
代表取締役

西村 忠浩

まずは、この環境報告書を発行するにあたり、排出事業者様はもとより、取引先様含め多くの皆様に、ご協力を頂戴した事に心より感謝申し上げます。そして、当社としては初の「環境報告書」を発行出来ました事に、スタッフ一同感謝の気持ちで一杯でございます。少しでも多くの方々に当社の環境への取り組みを知って頂ければ、こんなにも嬉しい事はございません。

さて、当社は昭和30年代からの長きにわたり、産業廃棄物と一般廃棄物の収集運搬・中間処理を主軸に、近年はリサイクル事業もサービスの一環として、皆様に提供して参りました。

平成15年に、湖南省(旧石部町)でのリサイクルセンター開設を皮切りに、今まで以上に適正処理、さらにはリサイクルという姿勢で業務を遂行してまいりました。現在では1に「再資源化」、2に「燃料化」、最後に「適正処理」という考え方がスタンダードになり、確立しています。

また順調に取扱量も増えており、昨年の工場での搬入量はおよそ15,000トンにも上る実績を達成いたしました。ますます厳しくなる社会情勢ですが、柔軟に対応し、さらなる飛躍を目指してまいります。

私たちは、昨年のサーベランスで拡大審査に挑戦し、その結果、グループ全体での「ISO14001」の取得を達成することが出来ました。この報告書も基本はISOの活動報告、そして社内のPDCAのサイクルに沿って、ご紹介させて頂いております。

地域の皆様や事業者様との協働活動であるBDF事業、温暖化防止に少しでも貢献出来ればという考えで、チームマイナス6%への参加、カーボンオフセットやグリーン電力への取り組みをさせて頂きました。今後も更なる活動をスタッフひとりひとりが展開して行き、皆様のお役に立てるよう尽力する次第でございます。

最後に、当グループは「人と地球にいいコミュニケーションパートナー」をキーワードに、「環境」「感動」「改革」の理念を忘れずに、今後も環境ビジネスに新しい価値観を創造すべく、スタッフ一丸となって皆様と共に歩んで行く所存でございます。

何かと厳しい時代だからこそ、今やっている事に対する自信や誇りをなくさずに、来るべき新しい時代の幕開けと、次の世代へつなぐ責任を忘れずに、キンカングループはやります、やり続けます。

「For The Next Generation」子供達にこの美しい地球を。

2009年10月吉日

2 会社概要

各会社概要

(1) 近畿環境保全株式会社

[本 社] 〒525-0041 滋賀県草津市青地町 196 番地
Tel : 077-564-1502 Fax : 077-567-3767

(2) 株式会社 湖南リサイクルセンター

[本 社] 〒520-3114 滋賀県湖南市石部口三丁目6番 13 号
Tel : 0748-77-8828 Fax : 0748-77-8820

(3) 株式会社 きぶら

[本 社] 〒520-3114 滋賀県湖南市石部口三丁目6番 13 号
Tel : 0748-77-8828 Fax : 0748-77-8820

(4) 有限会社 ラゴ

[本 社] 〒525-0041 滋賀県草津市青地町 196 番地
Tel : 077-564-1502 Fax : 077-567-3767

活動と製品及びサービス

一般廃棄物収集運搬

産業廃棄物収集運搬

産業廃棄物中間処理

特別管理産業廃棄物収集運搬

有価物加工販売

建設解体廃棄物の管理及びリサイクル（開発事業部）



近畿環境保全(株) 本社



(株)湖南リサイクルセンター 本社

キンカングループ事業拡大・株式会社 きぶら

2008年4月にキンカングループの関連会社として株式会社 きぶらを立ち上げました。当社においては、木くすのチップ加工を行っています。木くすの破碎後、磁選機によって釘やネジなどの細かい金属を取り除き、木のチップを製造します。木材の種類によってチップ化されたものは製紙原料、及びバイオマスボイラーの燃料用チップとして再利用されます。株式会社 きぶらでは、粉塵対策として天井にミスト噴霧機を設置し、使用しています。



株式会社 きぶら



製紙用チップ



燃料用チップ

環境報告書 2008

目次

CONTENTS

環境マネジメント

1. ごあいさつ	01
2. 会社概要	02
3. 環境方針	04

ISO 活動への取り組み

4. 環境活動計画と目標	05
5. 環境活動の結果と目的の評価	05

- ① 事務所で使用する OA 紙の排出量の削減
- ② 湖南リサイクルセンターの中間処理後廃棄物のリサイクル率の向上
- ③ 資源ゴミの搬出量の増加
- ④ 解体現場廃棄物のリサイクル率の向上
- ⑤ 廃植物油の回収量の増加
- ⑥ 木くすの回収量の増加
- ⑦ 木くすの搬出量の増加（株式会社きぶら）
- ⑧ 電気・水道の使用量の管理
- ⑨ 湖南リサイクルセンターの廃棄物の受入量と搬出量の管理
- ⑩ 設備燃料・重機・構内車の燃料使用量の管理
- ⑪ 収集運搬車輛の燃費の管理

6. 環境関連法規制の遵守評価	10
7. 緊急事態の事例、対応評価	11

環境への取り組み

8. 環境活動	12
---------	----

地球温暖化防止への取り組み

- ① CO₂ 排出量の管理
- ② カーボンオフセット
- ③ BDF プロジェクト
- ④ グリーン電力への取り組み
- ⑤ ハイブリッド車の導入
- ⑥ チームマイナス 6% への参画

スタッフ活動

- ① びわ湖環境ビジネスメッセ 2008 への出展
- ② スタッフによる資源ゴミ回収運動

9. 地域とのコミュニケーション	16
------------------	----

- ① 清掃活動
- ② 出張授業
- ③ 草津宿場まつりへの参加
- ④ 地元サッカーチームの支援

取得許可一覧表

● 近畿環境保全(株) <産業廃棄物収集運搬業>

	愛知県	大阪府	大阪府	大阪府	岡山県	岡山市	香川県	金沢市	岐阜県	京都府	高槻市	京都市	神戸市	堺市	滋賀県	奈良県	奈良市	東大阪市	姫路市	兵庫県	福井県	三重県	山口県	
燃え殻	○	○	○	○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
汚泥	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
廃油		○	○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
廃酸			○										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
廃アルカリ			○										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
廃プラスチック類	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
紙くず	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
木くず	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
繊維くず	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
動植物性残渣	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ゴムくず	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金属くず	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ガラス・陶磁器くず	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鉢さい	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
がれき類	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ばいじん	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
石棉含有(非飛散性)		○	○	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

● 近畿環境保全(株) <特別管理産業廃棄物収集運搬業>

廃石棉(飛散性)	宇都宮市・柏市・神奈川県・川崎市・川崎市・京都市・京都府・神戸市・埼玉市・さいたま市・相模原市・滋賀県・千葉県・千葉市・東京都・栃木県・奈良県・浜松市・福井県・船橋市・三重県・横須賀市・横浜市
感染性廃棄物	京都府・京都市・滋賀県・福井県
廃酸	大阪市・滋賀県

● 近畿環境保全(株) <産業廃棄物中間処理業>

破砕	廃プラスチック類・ゴムくず・金属くず・ガラス・陶磁器くず
----	------------------------------

● 湖南リサイクルセンター <産業廃棄物中間処理業>

破砕	廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・ゴムくず・金属くず・ガラス・陶磁器くず・がれき類
圧縮	廃プラスチック類・紙くず・繊維くず・金属くず
溶融	廃プラスチック類

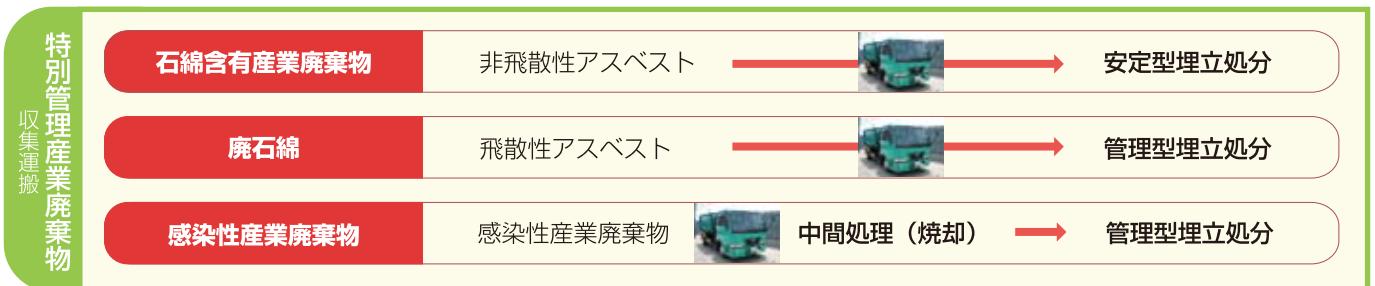
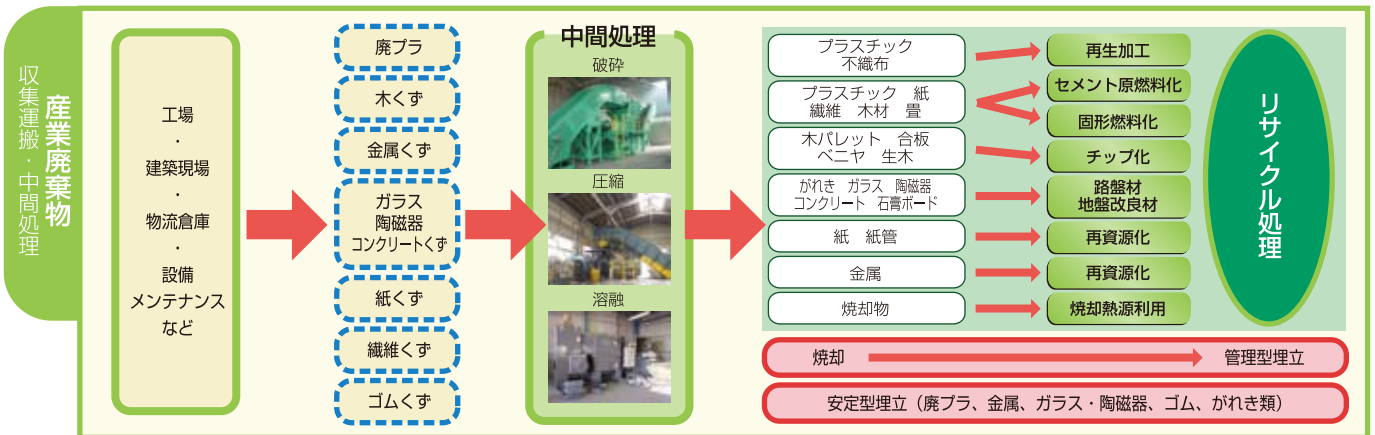
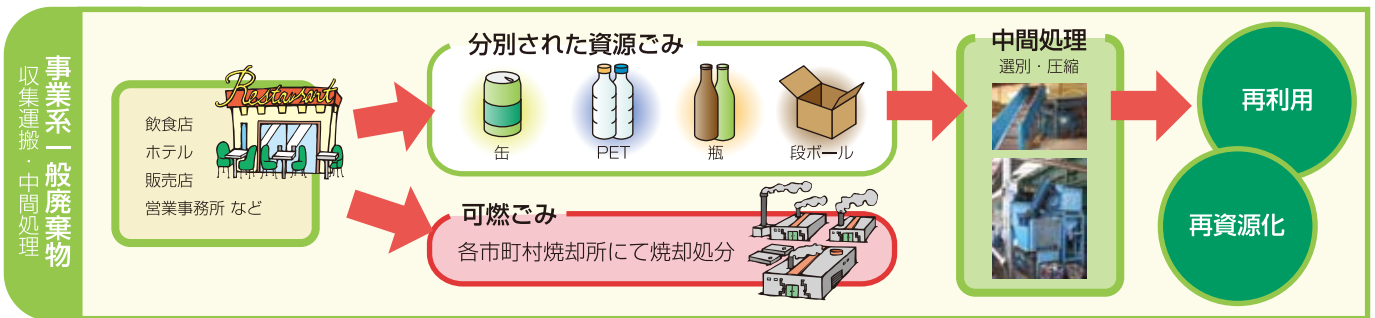
● 近畿環境保全(株) <一般廃棄物収集運搬業>

大津市・草津市・湖南市・彦根市・守山市・野洲市・栗東市

※1 許可取得地域の順番は「あいうえお」順になっています
 ※2 ○は積替え保管の許可もあまる品目を示しています

2009年9月現在

事業内容



3 環境方針

環境基本理念

当社は、資源リサイクルと廃棄物の収集運搬及び中間処理業を3本柱とし、適正に再資源化、処理を行う上で、循環型社会の構築に努めます。

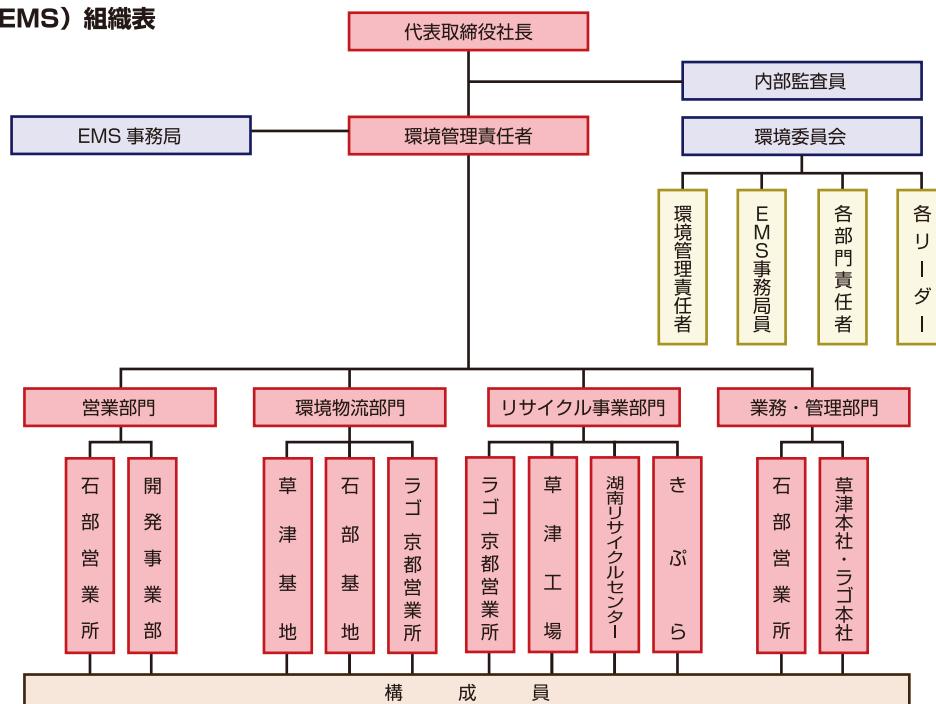
「人と地球に“いい”コミュニケーションパートナー」
をキャッチフレーズにかけがいのない地球を大切にしたい。
そんな気持ちの実現を目指し、自然との共生を目指します。

環境活動方針

1. 廃棄物を資源と認識し、適正に再資源化、再利用、再生利用、処理することに努めます。
 - ① 資源の有効利用と、社内から出る廃棄物の分別及び再資源化に努めます。
 - ② 中間処理後産業廃棄物のリサイクル率向上に努めます。
 - ③ 地域に根ざした環境事業の推進で、地域社会の貢献に努めます。
2. 環境関連法規制・条例及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
3. 事業活動から生じる環境負荷を低減するため、
具体的環境目的・目標を定め、環境マネジメントシステムを継続的に改善することにより、
環境汚染の予防に努め、環境保全活動を推進します。
4. 全構成員が、環境保全事業に従事する自覚を持ち、
常に環境に配慮した行動を心がけるよう周知し、環境に関する教育及び啓蒙を行います。
5. 本方針を実行し、維持し文書化して、全構成員に周知徹底するとともに、
社外にも情報開示します。

2005年9月6日 現在

環境マネジメント（EMS）組織表



4 環境活動計画と目標

当社の環境方針を実行するために次の項目を目標にし、環境活動を行っております。

- | | |
|---------|----------------------------------|
| 【目的・目標】 | ① 事務所で使用するOA紙の排出量の削減 |
| | ② 湖南リサイクルセンターの中間処理後廃棄物のリサイクル率の向上 |
| | ③ 資源ゴミの搬出量の増加 |
| | ④ 解体現場廃棄物のリサイクルの向上 |
| | ⑤ 廃食物油の回収量の増加 |
| | ⑥ 木くずの回収量の増加 |
| | ⑦ 木くずの搬出量の増加(株式会社きぶら) |
| 【維持管理】 | ⑧ 電気・水道の使用量の管理 |
| | ⑨ 湖南リサイクルセンターの廃棄物の受入量と搬出量の管理 |
| | ⑩ 設備燃料・重機・構内車の燃料使用量の管理 |
| | ⑪ 収集運搬車輛の燃費の管理 |

①～⑪の環境活動の結果と目標の評価を以下に詳しく説明致します。

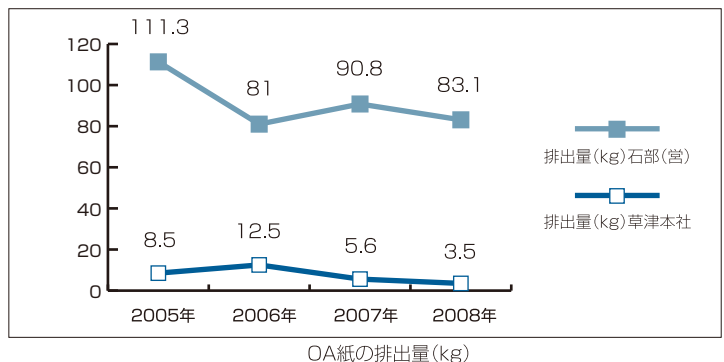
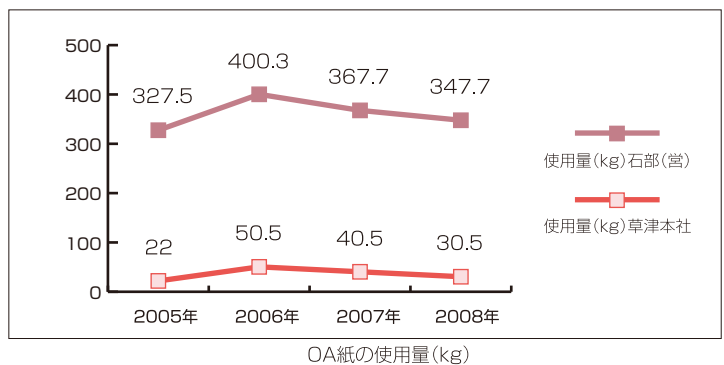
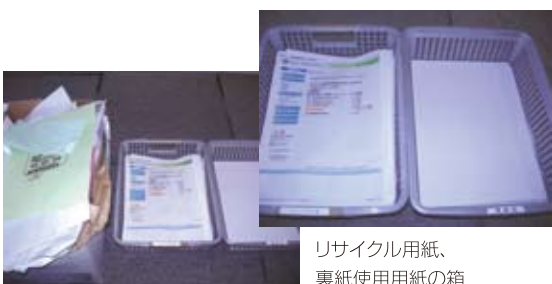
5 環境活動の結果と目標の評価

【目的・目標】

①事務所で使用するOA紙の排出量の削減

OA紙の使用量は当グループにおいて、2007年度と比べ、平均**7.4%**削減し、紙の排出量は平均**10.2%**減りました。裏紙の使用、紙の使用量が減る印刷設定や使用済み用紙などによって紙の使用量削減を工夫しています。

使用量	草津本社	2007年度使用量より25%減
	石部営業所	2007年度使用量より5.4%減
排出量	草津本社	2007年度排出量より37.5%減
	石部営業所	2007年度排出量より8.5%減



② 湖南リサイクルセンターの中間処理後廃棄物のリサイクル率の向上

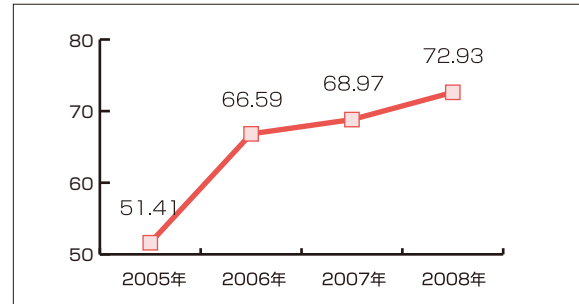
2008年度に湖南リサイクルセンターにおいて受入した廃棄物の量は、**7割**以上がリサイクルされました。受入される廃棄物の中から資源を選別し、できるだけより良いリサイクルができるようにしています。

	受入量	リサイクル処分量	リサイクル率
2005年	19344,7 t	7214,9 t	51,41%
2006年	14938,6 t	9947,8 t	66,59%
2007年	13601,3 t	9381,4 t	68,97%
2008年	14411,9 t	10510,6 t	72,93%

廃棄物の受入量、リサイクルの処分量、リサイクル率



構内における選別作業、湖南リサイクルセンター



中間処理後廃棄物のリサイクル率(%) / 湖南RC

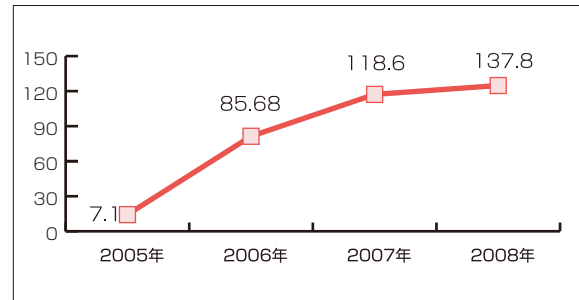
③ 資源ゴミの搬出量の増加

2007年度より資源ゴミの搬出量が**15.6%**増加しました。お客様に廃棄物を分別していただくことと当社の選別作業によって、ゴミは資源化され、新しく商品に生まれ変わることができます。



圧縮された段ボールとミックス紙

プレスされた缶



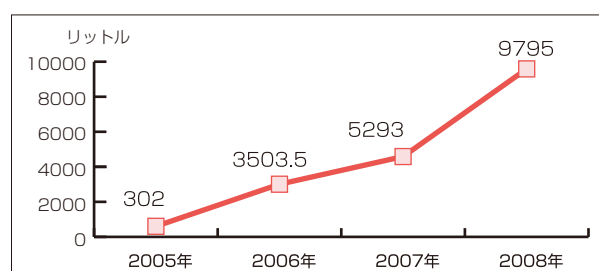
資源ゴミの搬出量 (t)

④ 解体現場廃棄物のリサイクルの向上

2008年に解体現場におけるリサイクル率は目標の**6割**を超え、廃棄物の約**64.6%**はリサイクルすることができました。

⑤ 廃植物油の回収量の増加

廃植物油からディーゼル車に利用できる、環境への負担が少ないバイオディーゼル燃料を精製している事業者とパートナーになり、廃植物油を回収する活動をしています。ご協力していただく飲食店、他企業などが昨年より多くなった結果、2008年度の廃植物油回収量は2007年度より約**85%**増加しました。廃植物油から製造されるバイオディーゼル燃料（BDF）を弊社の収集運搬車両の一部にも利用しており、そのBDF利用はCO₂削減への取り組みの一つとなっています。



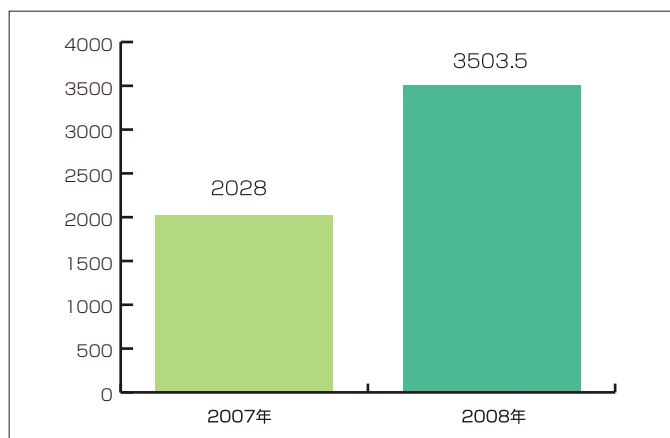
廃植物油回収量(リットル)



廃植物油の回収風景

⑥木くずの回収量の増加

木くずの処理がグループ内でできるようになり、株式会社きぶらが木質チップに専門化されたため、当グループの営業部における目標として、木くずの回収量の増加を工夫しています。2008年度に、木くずの回収量は2007年度より約**73%**増加しました。



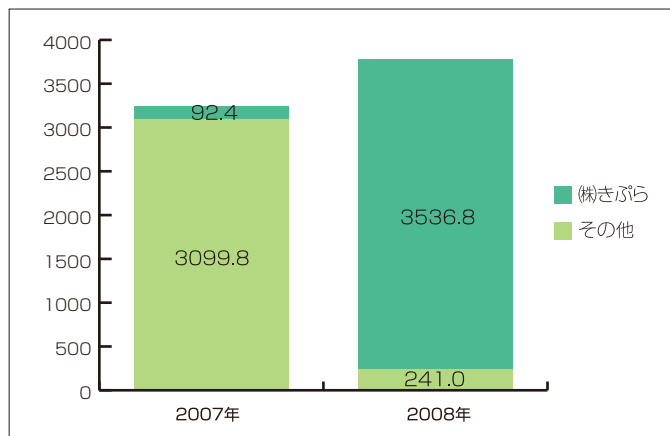
木くずの湖南リサイクルセンター搬入量



株式会社きぶら

⑦木くずの搬出量の増加(株式会社きぶら)

回収された木くずと混合廃棄物から選別された木くずが湖南リサイクルセンターで中間処理された後、燃料用、あるいは製紙原料用木くずは株式会社きぶらへ売却され、チップ化されます。今まで湖南リサイクルセンターが廃棄物として排出していた木くずはグループ内で中間処理され、資源物(有価物)として搬出されることは当グループのコスト削減、及び運送によって発生するCO₂の削減にも繋がります。昨年度と比べ、株式会社きぶらから搬出される木くずの総搬出量が非常に増加しました。



木くずの搬出量(トン)、株式会社きぶら・その他



きぶらで破碎された木くずのチップ

■上記の目標の達成率と評価結果を以下の表に示しています。

目標達成状況

2008年度の目標	達成状況	評価
① 事務所で使用するOA紙の排出量の削減。	平均 10.2% 削減	○
② 湖南リサイクルセンターの中間処理後廃棄物のリサイクル率の向上。	約 6% 向上	○
③ 資源ごみの搬出量の増加。	約 16% 増加	○
④ 解体現場廃棄物のリサイクル率の向上。	約 64.6%	○
⑤ 廃植物油の回収量の増加。	約 85% 増加	○
⑥ 木くずの回収量の増加。	約 73% 増加	○
⑦ 木くずの搬出量の増加(株式会社きぶら)	約 38倍 増加	○

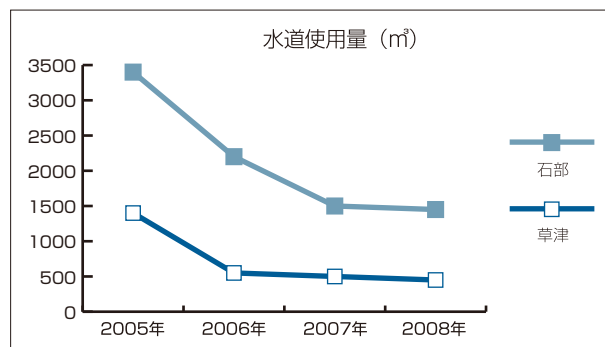
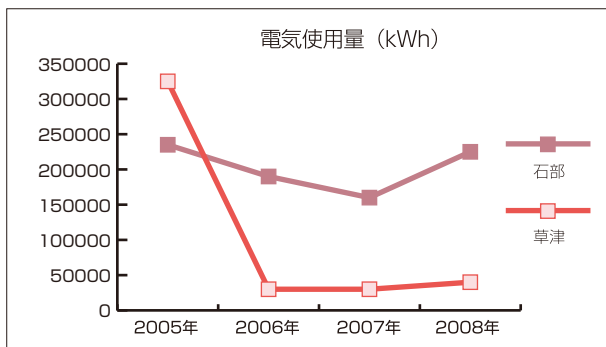
【維持管理】

以上の目標以外、営業活動を行っているためどうしても削減できない項目を記録するために、維持管理目標を立てています。環境委員会では、各部門で環境活動としての取組みになっていない、著しい環境側面に関する情報について定期的に観測を行い、管理しています。

⑧電気・水道の使用量の管理状況

電気と水道の使用量に関しては、2005年度から毎月データ入力を行い、数字を把握しています。

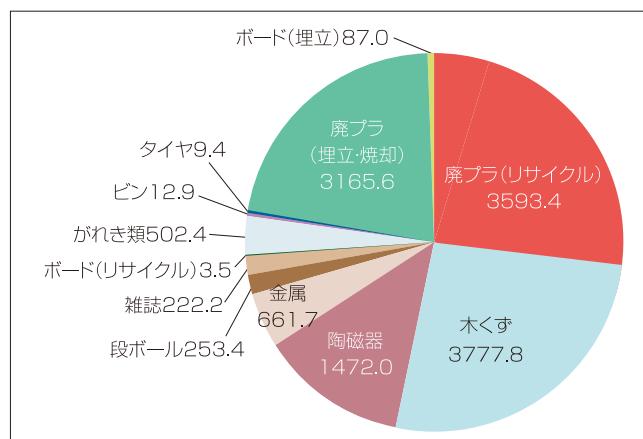
年度ごとのデータが以下に示されています。



電気使用量と水道使用量の年別データ (近畿環境保全(株)「草津」、(株)湖南リサイクルセンター「石部」)

⑨湖南リサイクルセンターの廃棄物の受入量と搬出量の管理

湖南リサイクルセンターにおいて2008年度に受け入れられた廃棄物は14,411.9トンでした。中間処理後の搬出物の中で、木くずとリサイクル用の廃プラスチックが最も多く、全体の約51%でした。



2008年度湖南リサイクルセンター搬出内訳(トン)

⑩設備燃料・重機・構内車の燃料使用量の管理

草津本社工場・湖南リサイクルセンターにおける設備燃料、重機、構内車の燃料使用量を毎年月別データで記録しています。

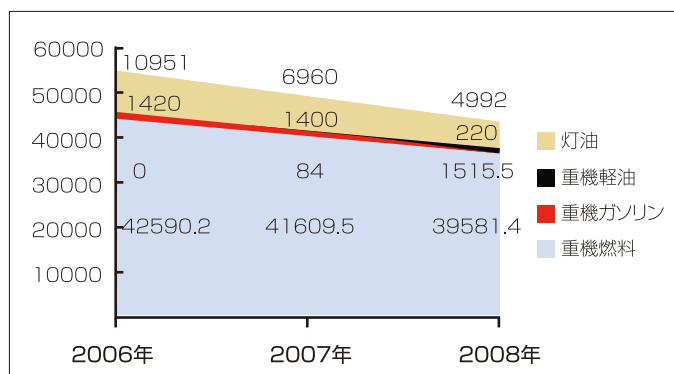
そのデータによれば、構内で利用されている燃料の中で、重機の燃料(MCF)が最も使われています。



溶融機(草津本社)



構内のリフト・重機(草津本社)



全グループの設備燃料・重機の燃料使用量、年別データ(ℓ)

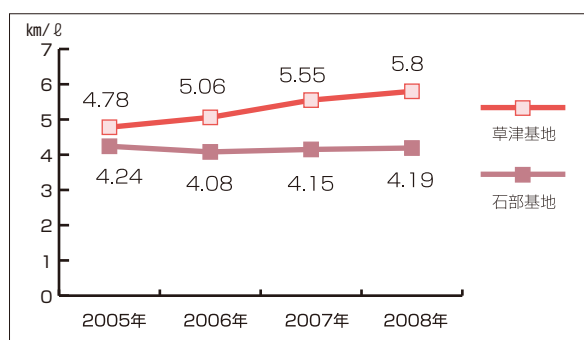
①収集運搬車輛の燃費の管理

キンカングループの収集運搬車輛は様々な廃棄物に適するように幅広い種類があり、お客様のニーズに合わせ、収集運搬方法を提供しています。

保有車輛一覧(2008年度末 現在 合計34台)

15 t 低床ウイング車	1 台	10 t コンテナ車	4 台	10 t ダンプ車	1 台
9 t コンテナ車	2 台	9 t 平ボディ車	1 台	9 t パッカー車	1 台
4 t コンテナ車	6 台	4 t ユニック付平ボディ車	1 台	4 t ユニック付コンテナ車	1 台
4 t パッカー車	11 台	2 t コンテナ車	1 台	2 t ダンプ車	1 台
2 t パッカー車	2 台	軽トラック	2 台		

草津基地と石部基地の両方でも収集運搬車輛の燃費が2007年度より増加しました。



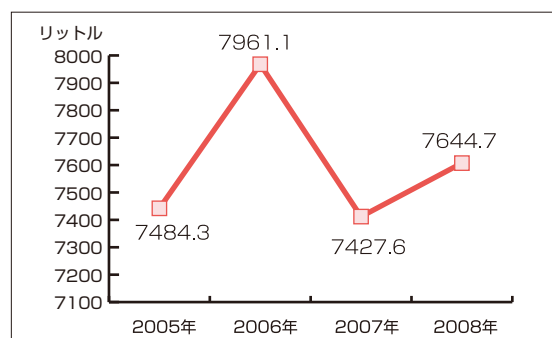
収集運搬車輛の燃費(草津基地、石部基地)



グループ全体トラック燃料消費推移

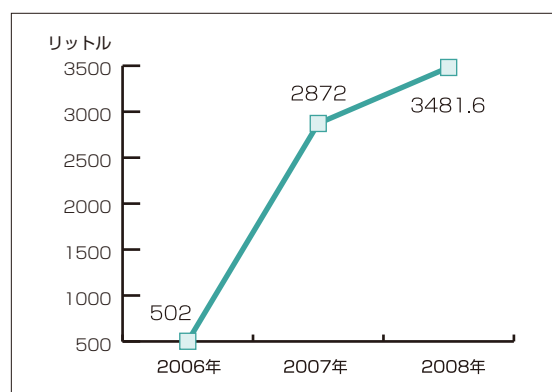
年	軽油給油量	保有車輛台数
2005年	217046.14ℓ	29台
2006年	254754.73ℓ	32台
2007年	245110.26ℓ	33台
2008年	259919.70ℓ	34台

以上の表のデータを元にトラック1台当たりの燃料を右に示しています。



トラック1台に当たる燃料(ℓ)、年別データ

又、上述したように、弊社は廃植物油を回収し、バイオディーゼル燃料(BDF)に精製された後、そのBDFを収集運搬車輛に利用しており、CO₂削減に貢献しています。従って、2006年度からBDF燃料の利用量が急増しました。BDFの利用を拡大する予定です。



BDF燃料の給油量の年別データ(ℓ)

6 環境関連法規制の遵守評価

事業者の産業廃棄物は排出事業者が処理しなければならない原則がありますが、処理ができない場合は、処理を廃棄物処理業者に委託することができます。当グループは廃棄物の収集運搬と処分を排出事業者に委託されます。様々な地域における収集運搬業許可と処分業許可を取得し、法を遵守した適正処理を行っている上、廃棄物の流れをマニフェストによって最初から最後まで管理しています。当グループは以下の環境関連法律・条例・協定を遵守しています。

法律・条例			
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	滋賀県生活排水対策の推進に関する条例	消防法	建設業法 浄化槽法
労働安全衛生法	道路運送車輛法 計量法	滋賀県ごみの散乱防止に関する条例	騒音規制法・振動規制法・悪臭防止法

キンカングループが遵守している環境関連法律・条例のリスト

騒音、振動と臭気に関しては毎年調査を実施し、基準に対するレベル状態を評価しています。以下にキンカングループの2008年のデータを示しています。

〈騒音レベルと振動レベルの調査結果と評価〉

騒音と振動のレベルに関する調査を年一回キンカングループの3社にて行います。2008年の調査結果によれば、実際の騒音レベルと振動レベルは規制基準値以下のため、良い評価となりました。

		湖南リサイクルセンター 2008年5月19日 実施	近畿環境保全 2008年5月19日 実施	ラゴ 2008年10月30日 実施
騒音レベル	規制基準	70dB	65dB	70dB
	調査結果 (No1, No2)	56dB (No1) 63dB (No2)	57dB (No1) 55dB (No2)	51dB (No1) 58dB (No2)
	評価	○	○	○
振動レベル	規制基準	70dB	70dB	65dB
	調査結果 (No1, No2)	42dB (No1) 47dB (No2)	37dB (No1) 35dB (No2)	30dB (No1) 30dB (No2)
	評価	○	○	○

〈臭気測定の結果と評価〉

臭気に関する調査がキンカングループの2社にて年一回程度行います。

	湖南リサイクルセンター 2008年5月19日 実施	近畿環境保全 2008年5月19日 実施
規制基準	工場その他事業場の敷地の境界線の地表における規制基準	敷地境界線 12
試験の結果 (臭気指数)	14 (No1) : 15 (No2)	15 (No1) : 18 (No2)
評価	○	×

※ 近畿環境保全の場合、当社東側と西側の敷地境界線で測定した結果、東側が南東の風、西側が南風になり、臭気測定の結果が基準値より大きかったのは当社以外の原因が考えられます。2009年5月の測定の速報は基準をクリアしています。

〈水質〉

放流水に関してもデータ管理を行っており、年一回水質に関する調査を実施しています。

7 緊急事態の事例・対応評価

当グループにとって緊急事態は火災です。緊急時を特定し、それに対応するための手順を決めています。実際に緊急時が起きた後は必要であれば手順を見直します。決めた手順が出来るかどうか定期的にテストしています。

そのために毎年社内勉強会、緊急時の対応訓練を行っています。

2008年9月に訓練を行い、緊急時の対応を練習し、勉強会を実施しました。



消火訓練／湖南リサイクルセンター



避難訓練／湖南リサイクルセンター



消火訓練／近畿環境保全



消火訓練／ラゴ

火災以外の緊急時に関しても年数回訓練や勉強会を行っています。構内で使用されている重機、リフトによる事故防止訓練を2008年2月と10月に実施しました。キャタピラージャパン株式会社様とTCM株式会社様に来社いただき、重機の訓練と勉強会を行いました。

また、緊急時に関する社外・社内の出来事や、お客様のクレームなどを報告書として記録しています。



重機点検訓練



安全に関する勉強会



フォークリフト点検訓練

8 環境活動

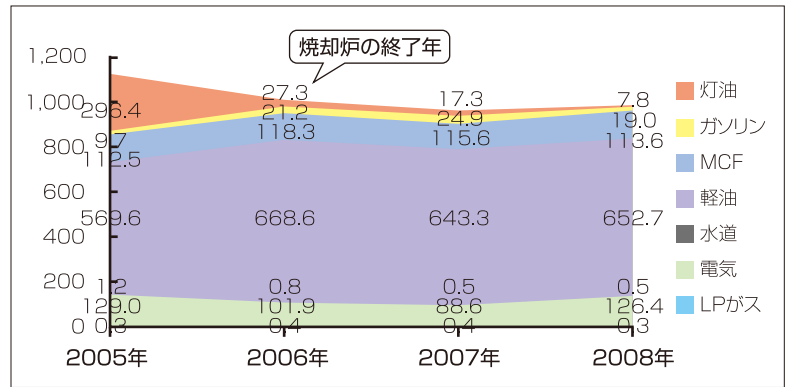
地球温暖化防止への取り組み

①CO₂排出量の管理

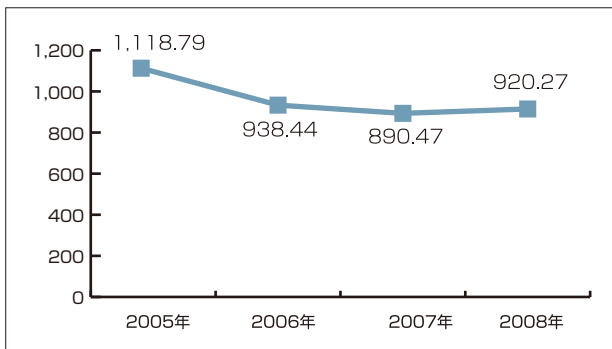
2005年度からキンカグループのCO₂排出量をエネルギーの種類別、及び月別のデータによって管理しています。

以下の図によれば、グループにおいて使われているエネルギーの中で最も利用されている（CO₂が最も排出される）のが軽油（運搬車輛）です。軽油のCO₂排出量を削減するためにキンカグループはカラマツの植林を行い、カーボンオフセットを実施しています。

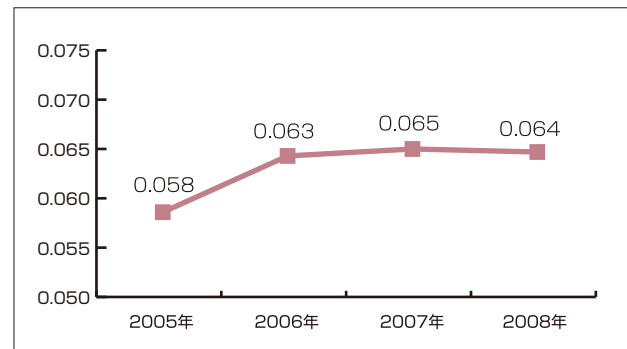
湖南リサイクルセンターにおいて排出されるCO₂は2008年度に約920トンでした。その結果、受け入れた廃棄物の1トンを処理するためには64gのCO₂が排出されました。これは、2007年度より減っていることも意味しています。



エネルギーの種類によるCO₂排出量 (トン)



CO₂排出量 (トン)、湖南リサイクルセンター



処理された廃棄物の1トン当たりCO₂排出量 (kg)

②カーボンオフセット

当グループでは、日々事業活動を行う中で、低炭素社会構築に向け、二酸化炭素排出量削減に向けての努力を行っていますが、どんなに努力しても削減できる量には限界があります。特に廃棄物収集運搬時の車輛から発生する二酸化炭素排出量は重要な課題です。

当グループでは、植林（カラマツ）によるカーボンオフセットを2008年5月から実施しています。カラマツ1本が30年間で吸収できる二酸化炭素量はおよそ250kgです。植林をとおして、地球温暖化防止だけでなく、砂漠化進行の防止や土壌回復による生物多様性の確保など地球環境の保全にも努めています。

キンカグループは砂漠化が進んでいる地域、貧困地域、特にアジア（内モンゴル）を中心に2008年度に22本のカラマツを植林しました。それは、約67,77kg CO₂の吸収する量に当てはまり、全車輛の燃料使用量の5%を示しています。

従って、当グループの車輛には、目で見える形でのカーボンオフセットの証明として、植林ステッカーを貼っています。



カラマツの木（写真はイメージです）

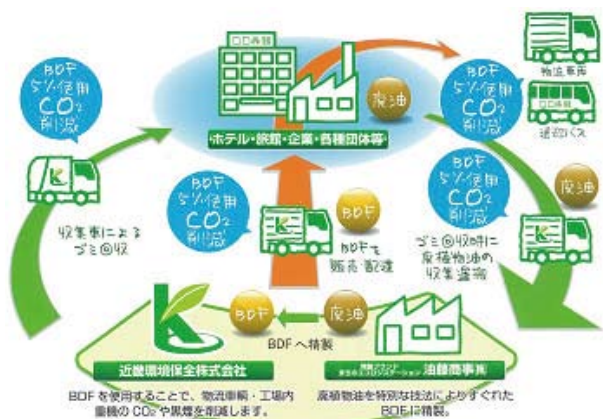


カーボンオフセット車輛のステッカー

③BDFプロジェクト

BDFとは「バイオ・ディーゼル・フューエル」のことで、今までゴミとして捨てられていた植物性の廃植物油から作ることができる軽油（トラック・バス・発電機・船舶など）の代替燃料のことで、BDFは「カーボンニュートラル」な燃料であることから、地球温暖化ガスの増加に繋がらないといえます。

弊社はお客様から排出された廃植物油を回収し、製造されたBDFを当社の一部の収集運搬車両に利用し、またお客様にもBDFご利用のご提案を行なっています。2008年にはおごと温泉組合に協力していただき、廃植物油を定期的に回収するようになりました。お客様のご協力のもと、効率的な廃油回収活動によってCO₂削減ができ、更に地域の活性化にも繋がります。



廃植物油リサイクルフロー



廃油回収、バイオ燃料に関する記事

京都新聞
2008年8月6日 水曜日
滋賀版 朝刊 16版 26ページ

地球一周プロジェクト「バイオディーゼアドベンチャー」の応援

当グループでは、バイオディーゼル燃料での地球一周プロジェクトを応援しています。地球一周プロジェクト「バイオディーゼアドベンチャー」とは、世界各地の人々との交流・協力により廃植物油を回収し、ガソリンスタンドに頼らず手作りの燃料（BDF）を移動先で作りながら、1台の車を走らせ、世界を一周することにより、地球の未来にむけて個人や地域の協力によってできる可能性の一端を、冒険の楽しさとともに強く発信していこうという企画です。

地球一周プロジェクトの特徴

- ◇ 世界各地でできるだけ廃植物油のみを回収して自分の車で燃料を作りながら走る
- ◇ バイオディーゼル燃料の可能性の探求と優れた小型プラントの実験
- ◇ 各地の方達と交流し、環境に優しいエネルギーや暮らしについて情報交換をしていく
- ◇ 出会った方達に地球の未来や夢についてメッセージを書いてもらい、メッセージを運ぶ
- ◇ クルマに入る世界最小のBDFプラントの実験
- ◇ 世界のBDFや新エネルギー事情を発信していく

2007年12月5日に東京をスタート。車両を船に載せカナダへと送り、カナダから陸路で国境を越えてアメリカを縦横断。北米、アフリカ（サハラ縦断）、ヨーロッパ、アジアと回り、各地で廃植物油を集めて燃料を作りながら地球一周した後、2008年12月1日に帰国しました。360日間の旅の全走行距離は47,853kmであり、集まった廃植物油は779名から6504リットルでした。2009年に日本一周を実施します。



湖南リサイクルセンターにて廃油を車に入れる



バイオディーゼアドベンチャーの山田さんと



ルートマップ

④グリーン電力への取り組み

当グループの中核を担う株式会社湖南リサイクルセンターの工場は、使用電力の約10%をグリーン電力でまかっています。電力会社から供給される電気に、このグリーン電力システムを利用して、工場での使用電力に「環境付加価値」をつけています。省エネ・CO₂排出削減を可能にした環境配慮型のリサイクル工場を実現しています。



グリーン電力証明書

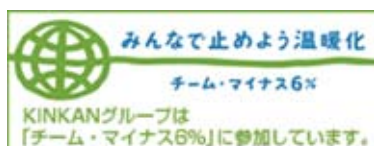
⑤ハイブリッド車の導入

トヨタ自動車のハイブリッド車は環境仕様として、開発・生産・使用・廃棄のすべての過程で、排出するCO₂や大気汚染物質を低減しています。バンパーやパネル、内外装品などにリサイクル性に優れた素材を使用し、排出ガスのクリーン化を促進すると共に、国内最高水準の『平成17年基準排出ガス75%低減レベル』として国土交通省より認定を取得しています。



当グループは営業車としてこのハイブリッド車を導入。営業活動を通して少しでも地球温暖化防止に役立てばと思っています。

⑥チームマイナス6%への参画



キンカングループは、環境省が進めている「チームマイナス6%」に参画しています。なかでも、事務所・営業側の取り組みとしてクールビズ、ウォームビズを早期から取り入れています。

冷房の温度を1度上げると10%の節電とCO₂を削減することが可能です。さらなる省エネに対する意識向上のためにも、当グループはこれからもクールビズ・ウォームビズを実践していきます。



スタッフ活動

①びわ湖環境ビジネスメッセ2008への出展



びわ湖環境ビジネスメッセの風景

びわ湖環境ビジネスメッセは、「環境と経済の両立」の基本理念のもと、毎年開催されます。2008年は、11月5日（水）～11月7日（金）の3日間、長浜ドームにて開催されました。過去最多276の出展社が集結、36,000人の方々にご来場いただきました。

環境ビジネスを行う企業が全国各地からびわ湖に集い、太陽光発電などの新エネルギー、省エネ、環境建築、またリサイクルなどといった様々な分野から出展しています。

我々キンカングループも、2008年で4回目の出展となり、リサイクル処理によるゼロエミッションの提案、地球温暖化防止としてのCO₂削減などをPRしました。また、異業種との交流を深めることもできました。出展の他に、セミナーも行われました。中小企業を対象にした環境ビジネスや、ドイツから講師を招いての最新ドイツ環境セミナーなどが行われました。



びわ湖環境ビジネスメッセにおけるキンカンブース（www.biwako-messe.com）

②スタッフによる資源ゴミ回収運動

『資源を大切にしよう』をいう言葉のもと、当グループでは資源ゴミ回収運動を行っています。身近なところからの環境意識を根付かせようと、各自が家庭などから集めたペットボトル・空き缶を持参し、一番多く持参した社員には、新年会での表彰・景品贈呈などを実施しています。

2008年度に合計25,155個資源ゴミが集まりました。その中で、最も多く集めたスタッフの個数は5,015個でした。



9 地域とのコミュニケーション

当グループは環境と社会に貢献すべきであると常に思っています。そのために社会の皆様、会社の周辺の皆様と交流、清掃や支援活動を行いつつ、貴重なコミュニケーションをしています。

① 清掃活動

びわ湖 清掃活動

7月1日はびわ湖の日です。毎年この日には、県民や事業者が集まり、びわ湖の湖岸で清掃活動が行われます。びわ湖の日は、平成8年、滋賀県環境基本条例において、環境保全への理解と認識を深め、環境保全に関する活動意欲を高めることが目的で制定されました。我々キンカングループも、2008年7月1日にこの活動に参加し、環境の保全に貢献しました。



びわ湖と野洲川の周辺で清掃活動を行いました

スタッフの清掃作業

キンカングループでは、月1回清掃活動を計画・実施し、工場内・工場周り・道沿いに落ちていたゴミの拾いなど社員全員で行い、地域美化に貢献できるよう努めています。

このような活動がスタートしたことで従業員の参加意識も高まり、今ではひとりひとりが行動に自覚を持ち、環境に配慮した活動をしています。



湖南リサイクルセンターにおける清掃活動



草津本社における清掃活動

② 出張授業

当グループでは地域社会への環境活動の一環として、地元小学校への出張授業を行っています。授業では、私たちと一緒にパッカー車への積み込み作業や運転席への乗車体験などをしてもらうだけでなく、質問時間を設け、小学生の疑問にお答えしています。

この授業を通して、自分たちの出したゴミがどのように運ばれて、どのように処分されているかを勉強し、分別する意味、資源の大切さを学んでもらいます。未来ある子供たちに次代の地球環境を守ってもらうようお願いを込めて授業に取り組んでいます。



野洲市立三上小学校での授業参加（2008年6月11日）
子供たちが興味を持ってくれました

③草津宿場まつりへの参加

草津宿場まつりは毎年4月に行われ、草津市の歴史から生まれた伝統、貴重な文化を守りながら地域を活性化し、人々に伝統の素晴らしさを理解していただくためのイベントです。2008年は第40回目のまつりとなり、当グループもキンカンのかごを作り、パレードや展示、レースなどに多くのスタッフが参加しました。ステージ発表ではキンカンのパッカー車をイメージするかごを説明し、地域の方々に当社の活動を知っていただき、また、ふれあう貴重な機会になりました。



草津宿場まつりへの参加（2008年4月29日）

④地元サッカーチームの支援

日本アマチュアサッカーチームの最高峰のリーグである JFL（Japan Football League）で闘う「MIO びわこ草津」を応援しています。キンカングループの中核をなす近畿環境保全(株)の本社が草津市に、中間処理業を営む(株)湖南リサイクルセンターが MIO のホームグラウンドがある湖南市にあることから、地域活性化活動の一環として MIO への支援活動に取り組んでいます。

2008年3月20日に行われたホーム開幕戦には当グループのスタッフが応援に駆けつけました。



応援しているキンカンスタッフ



サッカー試合でのキンカングループ広告

■ご意見・ご感想をお待ちしています。

キンカングループの「環境報告書2008」を最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。当報告書は、弊社の事業内容、活動、地球環境への取り組み、地域とのコミュニケーションなどをより知ってもらえるよう、作成させていただきました。弊社の環境報告書を公式に出版するのは今回初めてですので、至らぬ点が多々あるかと存じます。

今後も更に改良をしていき、より良い報告書にしていきたいと思っておりますので、皆様からのご意見・アドバイスなどを頂ければ、幸いです。今後とも当社の環境活動に、ご理解・ご協力のほど宜しくお願い致します。

2009年10月

近畿環境保全株式会社 一同

制作スタッフ：櫻井 美沙 佐々木 友彦 田中 恵子 永戸 浩一 西村 篤
西村 幸佑 林 明弘 藤田アニコー 吉村 祐香

発行日：2009年10月21日

お問い合わせ先

近畿環境保全株式会社 営業部

〒520-3114 滋賀県湖南市石部口3丁目6番13号

TEL 0748-77-7288 FAX 0748-77-7299

Email: info@kin-kan.co.jp 担当：藤田

URL: <http://www.kin-kan.co.jp>



近畿環境保全株式会社

株式会社湖南リサイクルセンター

株式会社きぶら

有限会社ラゴ